

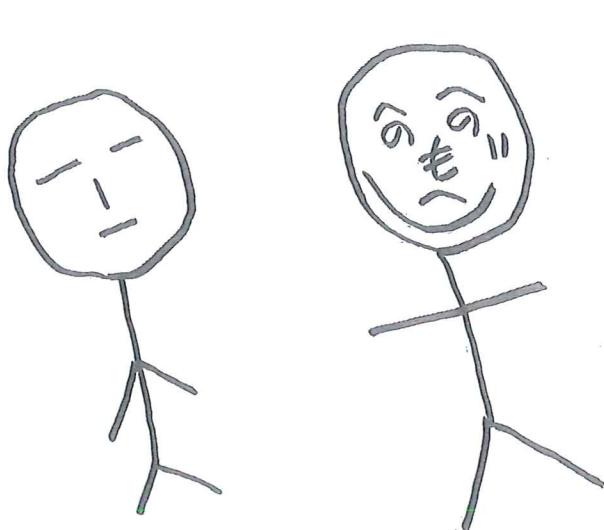
# 旅立ち

社会福祉法人しらとり会  
当事者通信(N.O. 114)  
令和7(2025)年4月1発行

今月は、5名の方からの投稿です。



リトルミー



救急車を呼ばれて病院に運ばれて注射をうたられて保護室に入れられた。保護室では朝起きるのが苦痛だったけど、夜寝るのは樂しみだった。飲食も樂しみだった。ある日、ひらめいて売店で看護師さんにお菓子を買ってきてもらって、食べたり飲んだりした。好きなものを食べたら元気になった。それがなかったら保護室での生活が長引いていた。元気になったことから、どんどん個室にうつって、大部屋にもうつれて、少しずつ世界が広がっていった。

(5月号に続く)

(匿名)



- 精神保健指定医の新人が初診を担当して初診でミスをして患者の人生を狂わしている。
- 初診こそベテランの精神科医をあてるべきだ。それでも精神科医療は医療過誤・医療事故を患者が主張すると入院が長引き隠蔽工作をする事が横行している。主治医の言う通りにすれば退院させてやると言う精神科医の態度は精神科がある限りなくなる事はない。
- 法律事務所ではパラリーガルとして司法書士や行政書士がクライアントの相談にのっている。
- 精神科医は患者の固定観念は取り扱えるが権力者の作る法令の場合には無能。

(加藤忠男)

#### 【投稿の募集】

投稿記事は、オリジナルのイラスト、投稿者の思いです。

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、4月15日(火)です。